

【第3弾】エコネットワークスと考える、サステナブルな働き方

距離の壁を超える働き方をデザインする

2010年6月4日
有限会社エコネットワークス

【サマリー】

- 「バーチャル・オフィス」のメリットは、いつ、どこにいても、どのような状況にあっても、仕事ができることです。
- 在宅勤務、オフィス勤務にかかわらず、「距離」の壁を超えて価値を創造するために役立つ情報を整理しました。
- エコネットワークスは、社会がサステナブルな働き方にシフトしていく流れを後押ししたいと考えています。

【1.はじめに】

エコネットワークス(ENW)の事務所は川崎市にあり、パートナーNGOのジャパン・フォー・サステナビリティと共用しています。ENWのメンバーは神奈川、千葉、埼玉、石川、カナダと各地に散らばっているため、必要に応じて事務所に行きますが、通常はそれぞれ主に自宅オフィスで働き、ITを使ってコミュニケーションを図ります。このような「仕事場」のあり方を私たちは「バーチャル・オフィス」と呼んでいます。

今日、企業でも在宅勤務を奨励する、営業担当のデスクをなくすという動きが進んでおり、会社員またフリーランスにかかわらず、いわゆる「ノマド(遊牧民)ワーキングⁱ」を実践している方も増えています。ENWでは、これを「チーム」として実践しようとしています。

それは、

- ・さまざまな方とコラボレーションするために必要
 - ・生産性が高まる
 - ・新しい価値を生み出すことができる
- と考えているからです。

しかし、このような「バーチャル・オフィス」について、「自宅だとだらだらしちゃわないの?」「人事管理はどうしている?」「連帯感が生まれれないのでは?」という声をいただくこともあります。

実際の業務では、もちろんいいことばかりではありません。いつ、どこにいても、どんな状況にあっても仕事ができるバーチャル・オフィスの強みを生かし、距離を超えてつながり、より大きな成果を生み出すために、私たちは日々、試行錯誤を重ねています。このレポートでは、私たちがどんな工夫をし、何に気を付けているかを具体的にご紹介しながら、この新しい働き方の可能性をお伝えします。

ⁱ ノマドワーキング：仕事は会社、オフィス(または自宅)でするもの、という固定概念を捨てて、場所を移動しながら、自分の都合、体調、気分に合わせて仕事するやり方。(『仕事するのにオフィスはいらない』(光文社新書)より)

【2. 直面した課題と ENW の取り組み】

物理的にオフィスに集まらずとも、組織として成立するためには、

- ・いつでもどこでも意思疎通ができること
 - ・距離はあってもタイムラグがないこと
- がまず大きな課題でした。

私たちが実践している取り組みを以下にご紹介します。

<ポイント1>

コミュニケーションツールを駆使する

- 離れていてもスカイプ会議で意見交換 無料のインターネット電話の活用
- 社内での定期的なミーティングなどは、Skype（スカイプ）を使って進めています。最近ではウェブカメラを標準装備したノートパソコンも多く、お互いに顔を合わせながらビデオ会議をすることもできます。

直面した課題： つい会議が長引いてしまう

いつも一緒にいないので、ついついあれもこれも話し込んで、時間内でなかなか終わらないケースが出て来ました。

ENW の取り組み

スカイプで長時間の会議をすると集中力が途切れがち。そこで、必ず 30～45 分以内で終わられるよう、会議のはじめに終了時刻を確認し合い、短時間で密度の濃い議論を心がけています。

直面した課題： 膨大なメール

メールのやり取りでは、「顔を合わせない分、念のため情報を共有しておこう」と意識するあまり、直接担当していない案件についても CC で受信することが増え、メールの量が膨大になります。これはどんなワークスタイルにも起こりがちなことですが、少しでも減らせないか、と考えました。

ENW の取り組み

- 情報共有はニング（Ning）で
- ツールの活用

クライアントとのやり取りの記録、進捗状況など、プロジェクトに関する全ての情報や、実務に関すること以外の気になった情報などを、無料でブログや掲示板機能が使えるツール Ning（右図）を非公開設定にして、一元管理しています。この方法は、メールのやり取りをぐっと減らせる効果がありました。



直面した課題： お互いが、いつどんなふうに忙しいのかわからない

例えば、急に相談したいことが出てきて、緊急で連絡を取らなくてはならないことも、もちろんあります。しかし、オフィスに毎日出勤するわけではないので、相手の状況がわからず、相談を躊躇したり、タイミングを逃したりしがちでした。

ENW の取り組み

- 日報専用のメーリングリストを設定し、日々の予定を共有したり、スカイプのログイン状態で在席中かを確認したり、Twitter（ツイッター）で進捗状況をつぶやくなど、いろいろ試みています。



Twitter(ツイッター)の活用

ゆるくパーソナルなつながりを広げるツールとして、話題のマイクロブログ Twitter。ENW では、グローバルな写真コンテストの企画・広報を支援するというプロジェクトで、非公開設定にした上で、お互いの進捗状況を気軽につぶやくお客さまとのコミュニケーション・ツールとして活用しました。

以下のようなプロジェクトには、効果的なツールとなりうると考えています。

- ・ウェブ上で展開するものなど、早いスピードでプロジェクトが進行する。
- ・不確定要素が多い(手法やスケジュールが適宜変更される)なかで、素速い対応が要求される。

<ポイント2>

空間を共有する機会を意識して設ける

バーチャルなコミュニケーションが増えたからこそ、空間を共有することには代え難い価値があります。実際に顔を合わせる機会を意識してつくり、その時間を最大限に活用する 必要なことだけを急いで議論するだけでなく、きちんと信頼関係を築けるような、深い対話ができるように、緩急をつけた時間の使い方をするよう、心がけています。

● クライアント訪問は対話の場

翻訳事業のマネージャーを務める二口は石川県金沢市在住ですが、クライアントの多くは東京周辺です。そのため、対面でのコミュニケーションを特に意識しています。プロジェクトのキックオフやご担当者さまの異動、新しいご提案の際には、お客さまを直接ご訪問してお会いするようにしています。ご要望を丁寧にお聞きし、弊社からの提案をお伝えしています。「対話」はインプットとアウトプットが同時にできる場なので、対話を通して生まれる新たなアイデアも得たいと考えています。

直面した課題： お互いのプライベートや健康状態がよくわからない

仕事以外の面を知る機会が少ないので、プライベートの側面や持ち味、お互いの興味、健康状態などをなかなか共有できませんでした。

ENW の取り組み

● Co-working (コワーキング)ⁱⁱ

取り組んでいるプロジェクトはバラバラでも、とりあえず同じ場所に集まって、一緒に時間を過ごすことを主眼に、2009 年秋から Co-working (コワーキング) を取り入れています。ネットがつながり、メンバーがアクセスしやすいカフェなどに集まり、相談しながら企画を仕上げたり、アドバイスをもらいながら、実際の資料を見ながら効率よく作っていったりもできます。

時には、外部スタッフにも来てもらい、打ち合わせなどを行います。

いわば「移動オフィス」としてのカフェの使い方が、ノマド的な働き方のアプローチの一つとして、これからますます広まると考えています。

ii Co-Working (コワーキング) : 個人として独立し、情熱や専門スキルを活かして事業を起こそうとする人(クリエイター、エンジニア、ライター、社会事業家など)にとっての共同スペース、というコンセプト「コワーキング・スペース」からきています(ENW 調べ)。ENW では、本文中にあるように、同じ場所に集まって、仕事をしながら一緒に時間を過ごすという意味で、このことばを使っています。

- 半年に1回の合宿



ENWでは、上半期、下半期のスタート時期の年2回、合宿をしています。経営計画や年間目標を共有し、ENWの事業全体の理解を深める時間にしています。

プレゼンスキルを上げるためのワークショップ、半年間のそれぞれの主要プロジェクトの共有など、仕事に直結するプログラムのほか、メンバー全員の「人生のできごと（卒業、結婚、留学、転職など）」をひとつに盛り込んだ年表をつくるなど、仕事以外の側面を共有する時間を意識して設けています。日ごろ触れることの少ない、互いの思いや夢、資質を知ること、コミュニケーションの質が高まり、結果的にそれぞれの仕事がやりやすくなると感じています。

将来のビジョンを共有、重なる部分を見つける

また最近では、パートナーとしてプロジェクトに参加してくれた外部スタッフをお誘いし、ENWを知っていただく機会にしています。そうした方に、ENWとはどんな会社かを伝える時間を設けることで、ほかのスタッフも、自分たちの立ち位置やミッションを再確認する機会にもなっています。



個人で想いを深める時間



夕食では、その半年にあったうれしいことをお祝いしました（オーガニックレストランにて）



「バーチャル・オフィスを楽しむ」ための自己管理 TIPS

ENW メンバーに、バーチャル・オフィスを楽しむために、それぞれ工夫している点を聞いてみると、大きく分けて3つのポイントがあることに気が付きました。

仕事とリラックスの時間を明確に設定する

「仕事が残っていても、夕飯前にいったん切り上げて、ジムへ行ったり、ジョギングします」

「曜日を決めて趣味のクライミングに没頭します。それを楽しみに、仕事の時間では集中して進めることができます」

メリハリをつける

「時間帯に応じて、仕事の内容を振り分けています。たとえば、朝一の頭が働くときに集中して資料を作成し、お昼まで細々とメール対応、依頼や指示を出します。午後は、移動も含めて打ち合わせを設定し、夕方や夜に、ゆっくりしながら企画を練ったりします。体のリズムと仕事の質をうまく組み合わせるようにしています」

オンライン/オフラインを切り替える

「パソコンに向かう仕事とパソコンを離れた仕事を交互に行うようにしています。30分パソコンに向かったら、電源を落としてしまい、紙とペンで企画を考えたり、資料を読み込んだり、というふうに意識してリズムを作ります」

「アイデアを出し、それを深めるなど集中したいときは、ネット環境がない喫茶店などに移動し、メールやネットサーフィンができないようにします」

みなさんはいかがですか？ 効果的なアイデアや実践について、ぜひお知らせください！！

【3．終わりに】

この「サステナブルな働き方」シリーズは、ENW をより知っていただくために、メンバーの現在の働き方の様子をお伝えする、さらにそれを進化させるために研究する、そして今後あらゆる専門性を持った方とのコラボレーションを実現するための働き方を模索する、という3つの目的で書いています。

特に3つめの目的については、ライフスタイルだけでなく、ライフステージとバランスのとれた働き方を念頭に置いています。男女問わず、結婚、出産、心やからだの病気、療養、介護など、人は生きていく過程でさまざまなライフステージを経験します。誰もがその時々に応じて、自分にとってベストの形で仕事をデザインし、選択できる社会にできたらと願っています。バーチャル・オフィスは、それを実現するために重要なアプローチと考えていますので、これからもさらに実践と研究を重ねてまいります。

私たちには、距離を超えてでも一緒に働きたい、それぞれの強みや優れた専門性・スキルを持った仲間が、日本中、世界中にいます。そしてさらにこれからもそんな仲間を増やしていきたいと考えています。誰でも必ず優れた特性やスキルを持っています。未来の仲間が仕事を続けたいと思っているときに、「こんな働き方もありますよ」と提案できれば、と願っています。

今後、このレポートシリーズで取り上げたらよいと思われるテーマがありましたら、ぜひお知らせください。働き方について、こういうことが知りたい、という疑問もお待ちしております。

内容に関するお問い合わせ・より詳細な情報をお求めの方はご連絡ください。
ご不要の方は、お手数ですが下記までご一報ください。

有限会社エコネットワークス 担当：：二口芳慧子、野澤健
info@econetworks.jp

<参考資料>

『フリーエージェント社会の到来 「雇われない生き方」は何を変えるのか』
ダニエル・ピンク著、玄田有史解説、池村千秋 訳 （ダイヤモンド社）

『仕事するのにオフィスはいらない』
佐々木俊尚著 （光文社新書）

<参考情報>

Skype（スカイプ）

<http://www.skype.com/intl/ja>

世界中どこでも、オンライン環境があれば無料で通話ができる、インターネット電話

ニング（Ning）

<http://www.ning.com/>

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の構築を支援するオンラインプラットフォーム

Twitter（ツイッター）

<http://twitter.com>

マイクロブログと呼ばれ、現在日本で急速に利用者が増えている。140字で思っていることを Tweet（つぶやく）ことができる。

フェイスブック（Facebook）

<http://www.facebook.com>

SNSの代表的なプラットフォーム。日本語版もある。

リンクトイン（LinkedIn）

<http://www.linkedin.com/>

他のSNSよりビジネスに特化したサービスを特徴としている。英語版のみ。